

1. 調査目的

- ・ H20 年度の交通実態調査以降に居住が進んでいる本郷 1～3 丁目を対象に、居住者の交通実態とバス利用の意識を明らかにし、バス路線改変を検討する際の基礎資料とすることを目的とします。

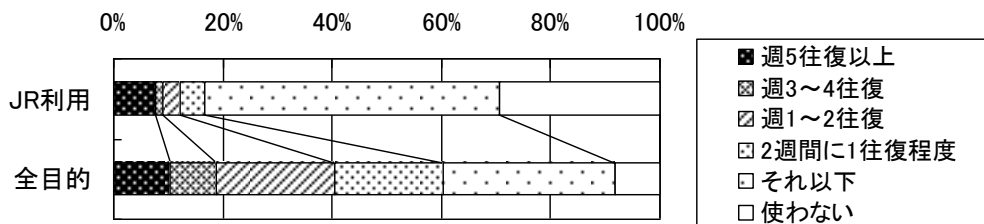
2. 調査方法と回収の結果

- ・ 対象地区内のすべての世帯を対象に、H26.1.25 に各戸を訪問し、調査票を郵便受けに配布しました。平成 25 年 4 月の住民基本台帳データ(656 世帯)にその後の入居を見込んで 700 世帯分を用意し、そのすべてを配布しました。
- ・ 調査票は、一つの封筒に 2 票を封入し家族の 2 名に答えてもらうように依頼しました。
- ・ 2 月 1 日締め切りとして料金受取人払いでの郵送返却を依頼しました。
- ・ 今回は、2 月 6 日到着までの、269 部で集計を行いました。

3. 主な結果

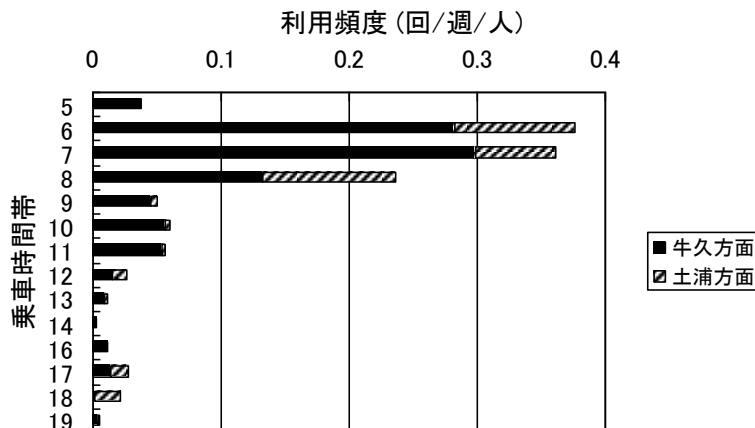
1) 荒川沖駅およびその周辺の利用状況

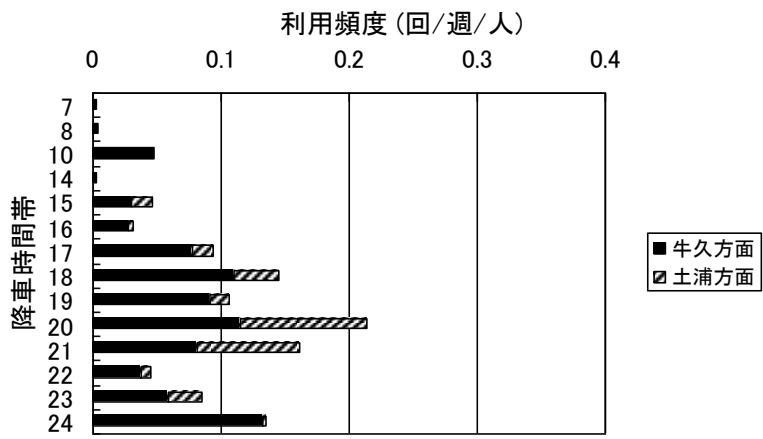
- ・ 駅および駅周辺の全体では、ほとんどの人が何らかの利用をしており、約 6 割の人が 2 週間に 1 回以上の利用を行っていることがわかります。
- ・ 鉄道利用は頻度自体はこれよりも小さいですが、約 8%の人が毎日利用していることがわかります。



2) 荒川沖駅の鉄道利用の時間帯

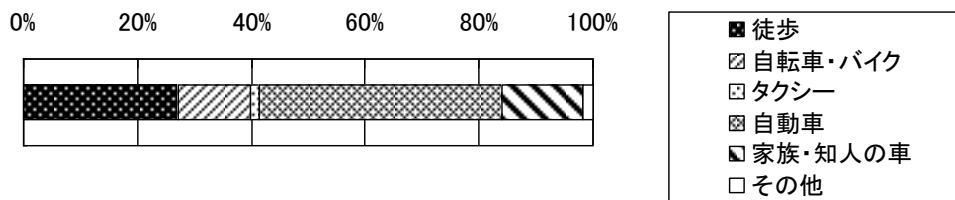
- ・ 回答者それぞれで 2 つの時間帯を選択してもらい、それぞれについて利用頻度を答えてもらった回答から、各時間帯ごとの週当たり利用頻度についての回答者平均を求めました。
- ・ これを見ると、出勤時は 6～8 時に集中しているのに対し、帰宅時は 17 時やそれ以前から 24 時まで広く分布していることがわかります。





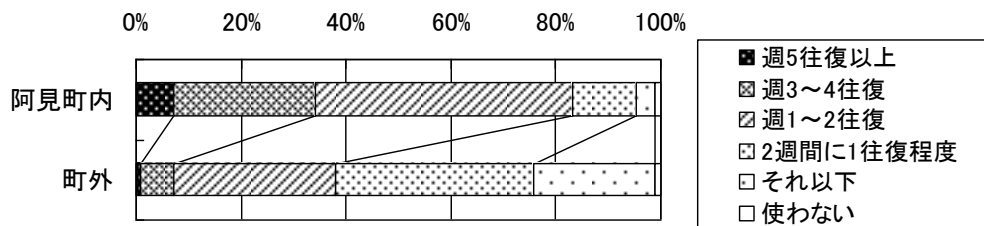
3) 荒川沖駅やその周辺の利用の際の交通手段 (2 つまで)

- ・ 調査では、最も良く利用するものとその次に良く利用するものを聞いていますが、その両方を合計し、得られた回答の比率を示しました。
- ・ これを見ると約半分が自動車であり、残りが徒歩、自転車・バイク、家族・知人の車となっています。
- ・ バス路線ができれば、その料金や利便性にもよりますが、後者の半分の人が利用可能性のある母集団と考えることができます。



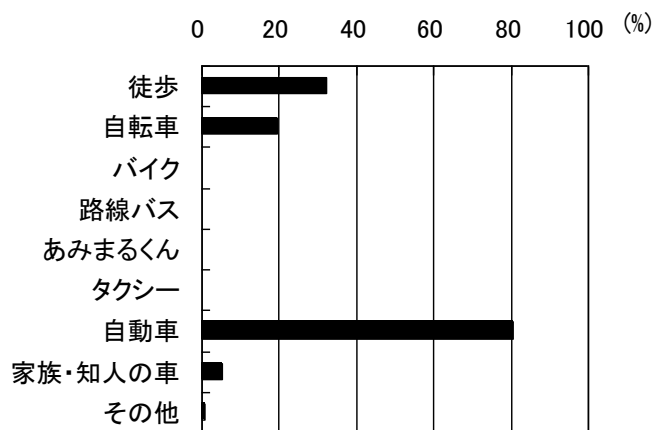
4) 買物での外出頻度

- ・ 買物での外出先では、町外に比べて阿見町内の利用が顕著に大きな結果となりました。
- ・ 今後さらに具体的な目的地の集計を予定していますが、町内でも本郷地区内かその周辺の割合が高いであろうと考えられます。



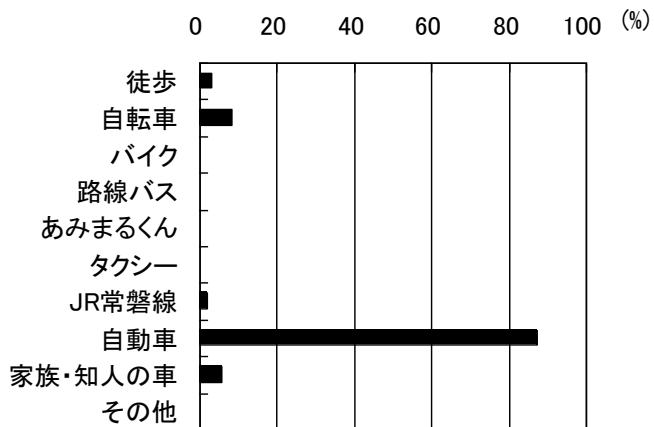
5) 買物での利用交通手段 (阿見町内)

- ・ 町内での買物の交通手段としては、約 8 割が自動車との回答でしたが、約 3 割は徒歩を回答しています。
- ・ 今後、目的地別の集計を予定しています。



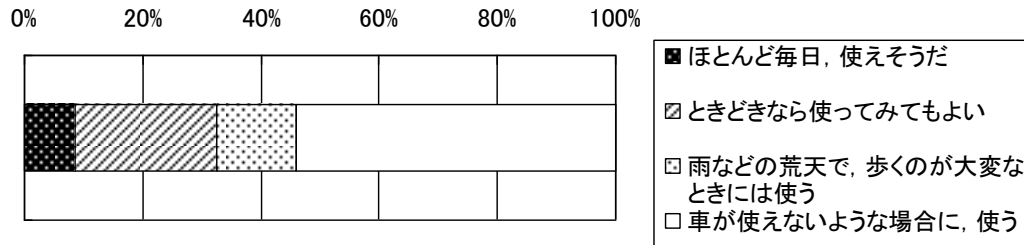
6) 買物での利用交通手段 (町外)

- ・ 町外への買物の交通手段としては、約9割が自動車との回答でした。
- ・ 荒川沖駅周辺での買物でも、車以外の手段で出かける人はほとんどいないものと考えられます。



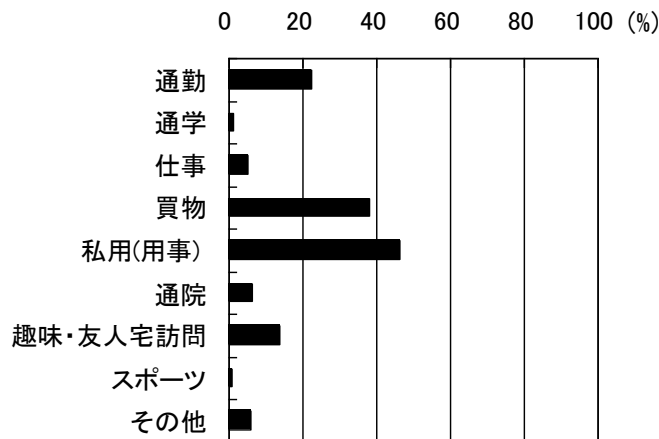
7) 路線バスの利用意向

- 希望する方面へのバス路線がもし運行されたとした場合の、利用以降を聞いたところ、9%の人が「ほとんど毎日使えそう」との回答であり、「ときどきなら使ってみてもよい」を含めると33%になりました。
- 今後、希望する目的地や、現在の交通手段等で分類して集計を行う予定です。



8) 路線バスを利用する際の交通目的

- 利用の目的としては、私用や買物が多く、次いで通勤が多い結果になりました。
- 具体的な、私用も含め、普段の外出先を別に聞いているので、それとの関係で具体的な目的地としてどこかの集計を今後行っていきます。



9) 路線バスを利用する際の目的地

- バスが利用できるとした場合の目的地では、圧倒的に荒川沖駅の周辺が多くなりました。
- 役場の周辺については、荒川沖駅周辺の約半分の回答になっています。
- また、アウトレット・工業団地方面も2割強の人が回答しました。

